

2学年通信

新宮町立新宮東中学校
令和7年10月9日 第56号
文責:江頭 俊輔

[写真を撮って、それで終わり！なんてもったいない！味わおう、感動を！]

前回は忙しい中でも余裕をもって、自分の認識する世界を広げながら、五感を通じて世界を味わうために、俳句を作ってみよう伝えました。今回も似たような話です。要は、技術の発達の影で、人生の楽しみが減っていっているのではないか？もっと、感動を味わおう！と伝えたいです。

前段の技術の発達に関しては、言うまでもありません。私が中学生だった約18年前と現在では、人間を取り巻く環境は様変わりしています。スマートフォンを使えば、学校が終わって、寝るまで友達とコミュニケーションが取れますよね。私の時代ではそんなことがなかったので、良い意味で友達とのコミュニケーションは学校内に限られていきました。また、スマートフォンを使えば、誰とでも、いつでもつながることができるので、いろんな情報を手に入れることができます。私の時代の情報源はテレビかジャンプ（少年週刊誌：私は【サンデー】派でした。）だったので、見逃すまいと必死になっていました。（見逃したときは、めちゃくちゃ反抗して、親のせいにしていました。すみませんでした。）

私が味わった、学校でのコミュニケーションの制約もテレビや週刊誌の視聴に必死になっていた感情もみなさんはあまり馴染みがないものかもしれません。逆に言うと、私が感じたこの不便さが、上手くいったときの【感動】につながっていたように思います。不便だから、感動する。なんと矛盾した世界でしょうか。

さて、みなさんの世界を見直してみましょう。何に感動しますか？例えば、旅行したときの風景？例えば、ご飯を食べに行ったときの料理？存分に感動できていますか？写真を撮って終わっていませんか？

[味わおう、感動を！（2回め）]

感動するを英語で言うと「move」という動詞を使います。moveは直訳すると、「動く、動かす」ですが、動くのは、物体だけでなく、心も含まれると考えると奥の深い単語だと感じます。感動するためには、心が動かされるのもしかし、心を【自分で】動かすことも必要だと思います。

私は日常のちょっとしたことに気づく力が、感動に繋がっていくと思います。前号の記述に戻りますが、日常のちょっとしたことに気づく力の土台には、「余裕」が大切です。「余裕」があって、日常のちょっとしたことに気づく力が磨かれていきます。少し余裕をもって生活しましょう。

日常のちょっとしたことに気づく力の具体例を挙げると、「あれ？髪切った？」「ちょっと今日、表情が明るいね！」などの変化に気づくことです。人に対してだけでなく構いません。「ちょっと風が冷たくなってきたな」「焼き芋の匂いがするな」「サンマが今年は安いな」などなど、ちょっとしたことに気づいて、ちょっと感動するんです。その繰り返しが、【感動を味わう】ことに繋がっていきます。

私が大学時代に感動した歌詞を紹介します。これはI wish/モーニング娘。という曲の一部です。この曲は「つんく♂」という作曲家が歌詞を書いています。（数あるつんく♂さんの曲の中でもこの曲は最高傑作の1つです。）特筆すべきは、人生って素晴らしいと思う理由の1つに「いつもと同じ道だってなんか見つけよう！」という部分です。たったそれだけのこと、「人生って素晴らしい！」と思える

感動を味わうことができると伝わります。ほんの小さいこと、でもその小さいことで感動を味わうことができる力、日常のちょっとしたことに気づく力は人生を素晴らしいものにする上でも大切です。

さて、今日の下校中の通学路でいつもと違う部分を見つけて、感動を味わってみましょう！